



平成 19 年 10 月 31 日
千葉大学園芸学研究科

国際シンポジウム
Sustainable Bioproduction under Changing Global Environment
「地球環境変動下での持続的生物生産」
の開催について

20 世紀に発展した「拡大とフロンティア開拓の科学」は開発性科学と呼ばれ、近代工業と経済の発展を牽引した反面、新たな環境問題・社会問題を引き起こしてしまいました。近年、それら開発性科学の発展がもたらした負の側面を克服することを目的とした、新たな概念と方法論にもとづく「サステナビリティ学(持続性科学:sustainability science)」を構築する必要性が高まっています。

今回の国際シンポジウムは、日本だけではなく、中国、韓国、タイ、フィリピン、インドネシアなどアジア各国の研究者を招聘し、「地球環境変動下での持続的生物生産」をメインテーマに掲げ、開催します。一日目は「閉鎖システム利用による機能性植物の持続的生産」について、二日目は「アジア各国における気候変動がバイオマス生産に及ぼす影響とその対策」について、それぞれ研究発表を行ないます。その後、総合討議において多分野の研究者間でディスカッションを行い、相互理解を深めることも目的としています。

国際シンポジウム 「Sustainable Bioproduction under Changing Global Environment」
地球環境変動下での持続的生物生産」

主催： 千葉大学大学院園芸学研究科
千葉大学環境健康フィールド科学センター
千葉大学サステナビリティ学アソシエーション(CARSS)
後援： サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)

- Part 1. Application of Closed Systems to Sustainable Production of Medicinal Plants-
「閉鎖システム利用による薬用植物の持続的生産」

日時： 2007 年 11 月 1 日(木)10:00 ~ 16:00

場所： 千葉大学柏の葉キャンパス シーズホール

- Part 2. Impacts of Climate Change on Biomass Production in Asian Countries and Their Countermeasures -

「アジア各国における気候変動がバイオマス生産に及ぼす影響とその対策」

日時： 2007年11月2日(金)13:00～16:30

場所： 千葉大学松戸キャンパス 管理棟2階 第一会議室

Part2 概要

アジア各国の農耕地から放出される温室効果ガスの生成メカニズム、生態系への影響と各国で研究されている対策の現状と今後について、国際稲研究所、インドネシア、韓国、日本(筑波)から講師をお招きしてシンポジウムを開催します。

ご希望がありましたら11月2日当日開催20分前くらいより、記者の方向けに事前レクを担当教員より行います。希望される場合には、御所属、氏名、連絡先を記載し、タイトルを「事前レク希望」としてメールアドレス(zaf8703@office.chiba-u.jp)までメールをお送りください。下記問い合わせ先メールアドレスとは異なりますので、ご注意ください。

本件に関するお問い合わせ先
千葉大学園芸学研究科企画総務グループ
Tel: 047-308-8706 Fax: 047-308-8720
E-mail: mtgaki@faculty.chiba-u.jp